

# 社会臨床ニュース

第90号

2015年8月13日

発行◆日本社会臨床学会

事務局 〒192-8506 東京都日野市程久保 2-1-1  
明星大学 明星教育センター 榎本達彦

E-Mail: [shakai.rinsho@gmail.com](mailto:shakai.rinsho@gmail.com) Web: <http://sharin.jp>

郵便番号: 00170-9-707357 銀行: ゆうちょ銀行 店名〇一八(普通)0601545

## 第 23 回総会を終えて

総会実行委員長 榎本達彦

日本社会臨床学会第 23 回総会は 5 月 23 日、24 日の両日、明星大学に於いて開催されました。参加者は 2 日連続での参加が 29 名、23 日のみの参加が 17 名、24 日のみの参加は 23 名、また、学生の参加は 23 日 1 名、24 日 5 名で全参加者は 75 名でした。昨年度よりは 3 割ほど増員となりました。ご参加いただいた皆さん、話題提供の皆さん、運営をサポートしていただいた皆さん、ありがとうございました。

明星大学での開催は昨年を引き続き 2 年連続でした。ということで、運営の側と

『社会臨床ニュース』のインターネット配信を了解される方は、

つきまご一報ください

社会臨床学会運営委員会は、今日まで紙媒体の『社会臨床ニュース』で、総会、合宿学習会、合評会、(そして、本号で新しくお伝えする)社会臨床学会研究会などの学会活動や、会員提供のニュースをお知らせしてきました。

このたび、『社会臨床ニュース』を、インターネット (E-mail、添付ファイル、URL など)によって配信する準備を始めました。このことによって、例えば総会期日が近づく際、重ねて配信できるとか、ご自分の周囲の方への情報伝達が便利になるとかを期待しています。また、郵送料の節約にご協力頂くこととなります。

つきましては、この方式による『社会臨床ニュース』配信を了解される方は、改めて、会員 (含む講読会員) 名とメール・アドレスを、学会事務局 (E-mail: [shakai.rinsho@gmail.com](mailto:shakai.rinsho@gmail.com)) 宛てでご登録くださるようお願い致します。

準備が整い次第、登録された方には、この方式に切り替えて参りますので、あらかじめご承知おきください。

以上、重ねて、ご協力のほど、お願い致します。

言うまでもないことですが、登録のない会員の皆様には、従来通り、紙媒体でお届けします。

日本社会臨床学会事務局長 榎本達彦

しては、昨年度の記憶が比較的是っきりしていたこと、昨年の運営上の資料や物品も揃っていたので、あまりバタバタすることなく進めることができたと思っています。その分、一方で気を抜いてしまったところもあり、ご迷惑をおかけしたかもしれないな、と心配しています。

また、参加者で昨年も来られた方は、都内から少し離れており、キャンパス内も入り組んでるのですが、あまり混乱なく来られたのかなと感じています。そういえば、天候にも恵まれ、昨年同様、初夏の季節を感じさせる緑あふれる多摩地区の景色を楽しんでいただけたかもしれません。

詳しくは、『社会臨床雑誌』での報告に委ねますが、1日目のシンポジウムⅠでは、日々生きていく上で、自分自身が性差観について改めてふりかえってみる機会を得ました。頭ではわかっている、ふと理不尽な発言や行動をしている自分をもう一度考えたいと思いました。

2日目のシンポジウムⅡでは、三人の話題提供者の話聞きながら、「老いの問題」というものが現代の社会の中で作り出された問題なのだなということを再認識させられる思いで聞いていました。僕自身にとっては、もう少し先の話かもしれないけれど、僕の91歳の母親のこと、周りにいる、親の介護で大変な思いをしている友人、知人もいるわけで、そういう問題をより広い視野で見る機会を持つことができました。

昨年の総会では記念講演を行いませんでしたが、今年はロバート・リケットさんから、40年間日本で生活をして考えてきたことを聞くことができました。一人の「外国人」の話にとどまることなく、「日本住民」の一人として私たち日本に暮らす者たちに対する重要な問題提起であったのだなと振り返っています。

総会が終わり、あっという間に時間が経って、本紙担当の編集者からの督促を受けて今、5月の総会を振り返りながら書いています。一番の思いは、2年続けたのだから、さすがにしばらくは明星大学での開催はないだろうな、ということです。

来年はまた別の場所で、皆さんに会えるのを楽しみにしています。

## 第1回社会臨床学会研究会のお知らせ

今期より「社会臨床学会研究会」を新しい事業の一つとして展開していきます。  
どなたでも参加できますので、ぜひお越しいただきたいと思います。

従来の学習会や合評会を統合しつつ新たな試みも加えていく予定です。“研究会”  
と言っても、敷居を高く感じていただく必要はなく、基本的には、「会員等のどなた  
かが魅かれているテーマ（あるいは学会が検討したいテーマ）について、みんなで  
共有し、検討し、学びあう」会にしたいと思っています。（三輪壽二）

吉田直哉論文「民主主義的パーソナリティの形成過程  
における境界体験の重要性—バーンスティンとウィニコットの場合一」（『社会臨床雑誌』22巻2号）をめぐ  
って

日時：9月20日（日）

午後1時30分～4時30分

場所：こもん軒

〒113-0021

東京都文京区駒込5-57-10

JR 山手線駒込駅東口下車徒歩10分

電話 03-3824-3306（または080-1353-1063 戸恒経由）

改札口を背にして右へ。アザレア通りを最初の信号も直進。

まもなく右手にソバ屋の看板。ソバ屋手前の路地に入る。右手に

「こもん軒」の看板。

発題者：吉田直哉（東京成徳大）

参加費：無料

## 発題要旨

吉田直哉（東京成徳大学）

2000年代＝「ゼロ年代」以降の若者論は、「分際を守る」慎ましやかなトーンを特色とする。

現在の若者は、決して傍若無人に振る舞う傾向を持っているわけではなく、むしろ「優しすぎる」。その「優しさ」は、「大人になり切れていない」ことから生じてきた、「子どもっぽさ」の表れだと、従来の若者論なら断じたであろう。

そこでは、「成人化」とは、年長の他者との葛藤と和解の過程として、一回性、不可逆のものとして論じられてきた。

ところが、そのような成人への道すじの描き方は、現状に沿うものとは思われない。控えめに言っても、当の若者たちに対して、説得力をもつものとは思えない。

今回は、近年の若者論の系譜に目配りしつつ、バーンステインとウィニコットにおける自我形成過程上の「境界」の体験というアイデアを導線として、現在において、「大人への道」をどのように概念化できるか、皆さんとともに考えていきたい。

## 吉田直哉さんプロフィール

吉田直哉（よしだなおや） 1985年静岡県生まれ。東京大学教育学部卒業、同大学院博士課程中退。現在、東京成徳大学子ども学部助教。専攻は教育人間学、保育学。

現在は、保育者を目指す学生の教育に携わり、大学生と日常的に接するなかで、青年期を生きる若者のアイデンティティの困難に強い関心を持っている。

著書に『保育原理の新基準』（編著・三恵社）、『保育者のためのキャリア形成論』（共著・建帛社）など。

## 第 X II 期の学会運営について

第 X II 期運営委員長 三輪壽二

会員みなさま、はじめまして。今期の運営委員長になった三輪です。

実は、私は第 VII 期及び第 VIII 期で運営委員長をしており、正確には 3 期目ということになります。以前の 2 期での学会運営が特別に楽だったということはありませんでしたが、第 X I 期では学会の財政事情が芳しくなく、学会の今後についていろいろな方向から考えていかねばならない状況になっていました。とはいえ、第 X I 期の決算報告は、会員の皆様のご協力もあり、切迫状況にわずかの緩和の感覚がもたらされました。しかし、200 名弱という現在の会員数、入会・退会者の動向、会員の年齢構成などを総合的に考えると、今後も厳しい学会運営が予想されます。

学会の事業を新たに展開して会員を増やすとともに、支出削減の方向で対応せねばならないことには変わりはありません。1 ページの「ニュースの電子化」のお知らせは、支出削減から出てきた方針ですが、学会情報の迅速かつ効率的な伝達という新しい事業でもあります。また、3~4 ページの「社会臨床学会研究会」は、これまでの学習会や合評会をリニューアルして展開する新しい事業で、これを通して、会員相互の関係や学びを深めるとともに、新しい会員の増加につながれば、と期待しています。

ただ、こんな時期だからこそ、私としては、社臨の原点を大切にしたいと思っています。私にとっての原点は、「誰もが入会できること」、ゆえにアカデミズムや運動体ではなく、現代の「教育・福祉・医療」の領域における現在の課題に関心を寄せる「多様な思索」を「方法論にこだわらず」、「議論し合うこと」です。

私の原点の捉え方についてはいろいろなご意見があると思いますが、いずれにせよ、予断を許さぬ状況で学会を盛り立てていくことは、私の手に負えるものではなく、他の運営委員、さらに会員みなさまの協力なしにはとても立ち行きません。それゆえ、奇数月の第 2 日曜日の午後 1 時（原則）からの定例の運営委員会に、会員の皆さんにもご参加いただきたいと思っていますし、運営委員会記録も概要につ

いては透明化して、どんなことが話し合われているのかを知っていただくことも今後、検討したいと思っています。どうぞ、ご協力、ご意見等をいただき、一緒に考えて下さるようお願いいたします。

## 第XⅡ期運営委員会役割分担

第XⅡ運営委員会は次のような体制で運営していきます。

赤松晶子、我妻夕起子、井上芳保、宇内一文、榎本達彦（事務局長）、岡山輝明、梶原公子、川英友、崎原秀樹、篠原睦治、戸恒香苗（運営副委員長）、中島浩壽、根本俊雄、林延哉、原田牧雄（編集委員長）、古谷一寿、本間公朗、三輪壽二（運営委員長）、八木晃介、山本栄子、横山勝、吉田直哉。

監査は、池見恒則さん、武田利邦さんです。